

たから幼稚園(自己評価)報告書

学校評価(幼稚園評価)の結果

NO.1

幼稚園教育の重点	自己評価の概要 ○成果 ▲課題	評価
1 教育目標の具現化・教育課程の完全実施	○園児の興味関心を調査しながら過去の生活行動を加味しながら指導計画をたて、実践してきた。 ▲今日的課題(教育環境・行事等の変更も含む)に対しては保護者や社会的ニーズに合わせて取り組まなければならない。	A
2 安全・安心な教育環境の整備	○避難訓練(火事・地震・不審者対応)については予定通り、5回実施することができた。 ○バス置き去り事故訓練に関連して、置き去り防止装置を利用した訓練を実施することができた。 ○園内で起こった園児の怪我については、管理職等の判断により、しかるべき初期対応(応急処置)を行い、医療機関に搬送し保護者に引き渡した。再発防止策を講じるとともに園児に対して支援の強化を図った。 ○毎月1日を目安に安全点検実施及び危険箇所の早期に把握し、改修・修繕を行った(主な箇所:園庭整備・遊具・樹木剪定)。 ▲特になし。	A
3 体罰や虐待などネガティブな教育実践	○園児の人権を尊重した教育実践が行われていた。 ○特に市内外の他の保育園等で「虐待」について報道がされたタイミングで、研修会を2度実施して、虐待について認識を新たにした。 ▲特になし	A
4 環境構成の充実	○通常的环境構成については教員間で十分な話し合い等を重ねながら、実施することができた。 ○担当者のリーダーシップによってねらい・目的を明確にしながら、定期的に構成の変更することができた。 ▲一部、マンネリ化している面もあり、改善を必要とする。	B
5 保護者との信頼関係の構築	○保護者との信頼関係を築く努力として日々の情報交換が大切と考え、連絡帳(アプリ機能も含む)等での連携に取り組んできた。 ▲一部幼稚園側の思いが伝わらず、誤解を生むことがあった。保護者との話し方を含め理解を得られるようなコミュニケーションをとれる研修等が必要がある。	B
6 職員研修	○昨年度の反省を生かして、園内研修を6回ほど実施した。初任者研修とタイアップして行うこともできて、質も向上してきている。 ○総合教育支援センターの実践発表等も滞りなく進めることができて、他園へも情報提供ができた。 ▲研修に対する意識が低下している職員もいるので、研修こそ教員のスキルアップ・キャリアアップにつながるとの思いを共有したいところである。園内外研修の機会を増やしたい。	A

幼稚園教育の重点	自己評価の概要 ○成果 ▲課題	評価
7 地域との連携	○園行事において地域の各種団体(如宝寺大悲講・門前若連)の皆さんに協力を得て園行事を執り行った。(はなまつり・みたままつり・もちつき) ○アフターコロナとなり、なかなか来園していただくことができなかった地域の皆さんや卒園児も含めて、交流の場となった。今後は行事等の内容を工夫していきたい。 ▲今後は内容を精選してさらによりものにしていきたい。	B
8 幼保小連携	○幼保小連携に関わる研究会が郡山市連合会に組織化されている。それに伴って本園でも連携の気運が高まってきた。小学校入学までにやるべき内容の確認と実践ができた。 ○小学校訪問(近隣3校)を実施した。園児と児童の交流こそ少なかったが、見学・説明会を催すことができて園児の意識も高まった。保護者からも高い評価を得た。 ○また、芳山小学校との連携をより内容の濃いものにすることができた。小1と年長の合同授業(あそび)が実現できた。これまでより大きく前進したといえる。 ▲今後も授業参観・保育参観を定期的に実践し、情報交換の場を設けていきたい。	A
9 関係機関との連携	○支援を要する園児の保育に当たり、療育の専門施設等との情報交換や保育参観など実施し、職員の特別支援に関する研修につなげるとともに、該当園児の支援に寄与した。 ▲関係機関及び保護者を交えて支援について共通理解を深めていく過程で、職員の研修になった。	B
10 その他	○園経営上、これから先の園児数の見通しを持って園児獲得を進めていく必要がある。園児募集の在り方の工夫が求められる。保護者のニーズが【教育要領(文科省)】に則った教育・保育を推進している本園のスタンスが受け入れられるとも限らない。小学校の先取り(習い事重視)をしているような園が安定している節もある。望ましい教育観を持った保護者に選んでもらえる幼稚園を目指したい。 ▲保護者のニーズに応えるように未来志向で園経営に取り組んでいく必要がある。	A

【学校評価(幼稚園評価)の結果を踏まえた今後の改善策】

◎反省と評価を生かした教育課程の改善及び教育目標の具現化を明確化すること。
 ◎できる限り地域の各種団体との連携を図り、地域の教育力を園に持ち込む。
 ◎70年を超える歴史と伝統を継承しながら、今日の課題を見据えて新しい未来志向の幼稚園を目指していく。

以上